

嬉 望

第 6 号
平成26年8月20日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



インターンシップ目前!

前期の授業が終了し、夏季休業に入りました。一年生にとっては、初めての長期休業です。フィールドワークや現任校との連絡など、学びを深める姿が見られます。

二年生はインターンシップを目前に控え、最終準備を進めているところです。本学のミッションは「理論と実践の往還」。一年半の学びの成果を実習先での経験を通して実証すべく、二年生一同、期待感にあふれています。

受入先の皆様、院生たちが全力でインターンシップに臨みますので、どうぞよろしくお願いいたします。



インターンシップ計画発表 パネルディスカッション 7月18日(金)

7月18日(金)、本学図書館地下一階ライブラリーホールで、二年生によるインターンシップ計画発表のパネルディスカッションを行いました。

【前半の部 4名】

○兵庫県立姫路別所高校 小田昌史主幹教諭

◆めざす生徒の姿は、「社会人としての基本的な力を身につけた生徒」。学校行事・ボランティア活動等の体験活動の見直しにより、生徒の自己有用感を育てる学校づくりが、改善プランの方向性。
熊本県立東陵高校でもインターンシップを実施し、現任校との比較を試みる。

○秋田県大館市立西館小学校 柏崎勇人教頭

◆探究的な力、表現力等が、子どもたちの課題。「ふるさとキ

ヤリア教育」が、保護者・地域住民と子ども・教職員にどのように認識されているのかを解明し、キャリア教育の効果的なカリキュラムの在り方に迫る。
現任校と大館市教育委員会双方にてインターンシップを実施。

○鳥取県鳥取市立中ノ郷中学校 田中栄一教諭

◆「校区の小・中学校、地域が一体となった教育の展開」をテーマとして、9年間の流れの中で子どもたちを育てるための効果的な方策に迫る。
地域の教育力活用が学びと社会性育成の一貫性を生み出し、子どもたちの「生きる力」をいっそう高める、との仮説をインターンシップで検証。



左奥から兵庫県立姫路別所高校大館市立西館小学校(2年生)、秋田県大館市立西館小学校 柏崎勇人教頭(2年生)、鳥取県鳥取市立中ノ郷中学校 田中栄一教諭(2年生)、北海道釧路町立富原小学校 傳法谷肇教諭(2年生)。4名が前半の部で発表。



後半の部。左奥から、司会コース長 浅野先生、兵庫県新温泉町立照来小学校 谷田安雄教諭(2年生)、山口県山口市立鴻南中学校 原田隆史教諭(2年生)、兵庫県立太子高校 福田孝善主幹教諭(2年生)、兵庫県立和田山特別支援学校 古屋光晴教諭(2年生)。

○北海道釧路町立富原小学校 傳法谷肇教諭

◆地教行法の改定がなされ、地方教育行政の転換期にある今、町教育委員会の果たすべき使命について追究。「協働」をキーワードとして、量的・質的データに基づき、成果志向のビジョン構築をめざす。
釧路町教育委員会、北海道教育委員会双方にてインターンシップを実施。

* * * * *

【後半の部 4名】

○兵庫県新温泉町立照来小学校 谷田安雄教諭

◆開かれた学校づくり、地域の声が反映される学校評価、幼保・小・中・高の校種間連携の三つを柱に、地域とともにある学校づくりの視点から、ビジョンの再構築を図る。
小規模校の特性を強みとして最大限に活かすことを念頭に置き、現任校にてじっくりとインターンシップを実施。

○山口県山口市立鴻南中学校 原田隆史教諭

◆まずは、指導主事の日常的な学校訪問支援の実態を知り、教育行政の役割や機能全般について理解を深める。
さらに、「地域とともにある学校づくり」の現状をデータに基づいて検証し、施策の今後の方向性に迫る。山口市教育委員会・大分県九重町教育委員会にてインターンシップを実施。

○兵庫県立太子高校 福田孝善主幹教諭

◆カリキュラムマネジメントを意識した学校改善、「開かれた学校づくり」における管理職としてのマネジメント能力育成の二本柱を課題とする。
現任校が現在めざしている改善の方向性を重視しつつ、キャリア教育システムの推進を中心とするビジョンの再構築を行う。

○兵庫県立和田山特別支援学校 古屋光晴教諭

◆現任校の地域支援の現状を把握するとともに、支援のために必要となる組織的な対応を、学校経営の観点から考察。
センター的機能の可能性を分析し、そのための人材育成の仕組みづくりを、共同で行う。

研修を中心とした現任校への貢献を、インターンシップを通じて、さらに深化させていく。

